

平成24年度 評価計画及び自己評価

(計画・**中間**・最終)

警固屋中学校区 校番 8 学校名 警固屋中学校

a 学校教育目標	未来を創造する豊かな心と確かな学力を身に付けた子どもの育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉 (学校の使命) 小中一貫教育を通して、知・徳・体のバランスのとれた、義務教育を修了するにふさわしい学力と人間関係の力及びふるさとを愛する心を育成する学校を創造することを使命とする。
			〈ビジョン〉 (将来の学校像) ・子どもも教職員も一人一人が自己存在感を味わう、笑顔あふれる学校を目指す。 ・家庭や地域の支援を得て、子どもの成長を喜ぶ、地域に開かれた学校を目指す。 ・創造に励み、実践を確かめながら進む、意欲と活気のある学校を目指す。

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	○学校生活は大きな問題行動が少なく、比較的落ち着いている。 △生徒一人一人が自律し、集団の向上のために貢献しようとする意欲を十分引き出せていない。 ○生徒の授業評価アンケートでは、「よくわかる」において全教科平均で9割ほどが肯定的評価をしている。 △家庭学習時間が目標に達していない。学力の定着にとって、マイナス要因である。
------------------------------	---

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・③年目)						自己評価					
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	8月			2月		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	学力の定着を図る。 責	○「この先生に学んで良かった。」と思える授業づくりを行う。 ○9年間を見通した授業づくりを行う。	・教えて考えさせる授業づくりを進める。	・授業の理解度の単元終了時における生徒の自己評価の肯定的な割合を85%以上にする。	85%	86%	101%	A			
・家庭学習の進め方と効果を具体的に示し、「家庭学習をして良かった。」と生徒に実感させる。			・学年別家庭学習時間の達成率を70%以上にする。	70%	59%	84%	B				
・乗り入れ授業により児童の学習への意欲や理解力を高める。			・乗り入れ授業の児童の自己評価における意欲や理解に関する肯定的な割合を90%以上にする。	90%	91%	101%	A				
**	コミュニケーション力を育成する。	○誰に対しても気持ちよく挨拶ができる生徒にする。 ○生徒の「ことばの力」を高める。	・教職員自ら気持ちのよい挨拶を心がける。 ・立ち止まって、自分から挨拶する指導を徹底する。	・(立ち止まって)挨拶をしている生徒評価を85%以上にする。	85%	85%	100%	A			
・読書習慣の形成を図り、感性、表現力、創造力を豊かにすることで、「ことばの力」を育てる。			・1か月に3冊以上本を読む生徒の割合を50%以上にする。	50%	63%	126%	A				
・「ことばの力」を発揮する場を生徒に積極的に提供し、効果的に評価していく。			「ことばの力」を発揮する作品募集等に1回以上応募する生徒の割合を90%以上にする。	90%	100%	111%	A				
*	生徒の自尊感情を高める。	○一人一人の生徒に視点を当て、笑顔でほめる。	・機会を逃さず意識して生徒を笑顔でほめ、記録する。	・「自分の良さは周りの人に認められている」と肯定的に自己評価する生徒の割合を80%以上にする。	80%	64%	80%	B			
*	生徒の体力向上を図る。 責	○生徒の体力・運動能力向上のための取組を行う。	・部活動の活性化を図り、準備運動等において体力・運動能力向上のための統一した取組を行う。	・長座体前屈平均を上回る生徒を70%以上にする。	70%	53%	76%	C			

【k:評価】
 A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
 C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

平成24年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間 最終)

警固屋中学校区 校番 8 学校名 呉市立警固屋中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	学力の定着を図る	○「この先生に学んで良かった。」と思える授業づくりを行う	「この学期の授業内容は分かりやすかったですか。」全教科平均86% 教科によって多少のばらつきはあるものの、生徒は概ね授業に満足している。 「学年別家庭学習の達成率」59% すべての学年において、平均値が目標時間に到達しておらず、家庭学習の必要性を十分理解させ切れていない。 また、家庭学習が極端に少ない生徒もいる。家庭学習が習慣化していない。	研究授業及び交流授業を促進し、授業反省等を協議することで、教員の授業力を向上させる。また、教えて考えさせる授業、言語活動の充実について研修を進め、よりわかりやすい授業を目指す。 次時の授業につながる課題を出すことで、家庭学習時間を増やし、やってよかったという充実感を持たせることで、学習意欲を向上させる。
		○9年間を見通した授業づくりを行う	乗り入れ授業(国語・算数・外国語活動、音楽、図工)における児童の意欲や理解に関する肯定的評価の平均91% 教科によって多少のばらつきはあるものの、児童は概ね授業に満足している。	今後も引き続き、楽しく、わかりやすい授業を目指していく。
**	コミュニケーション力を育成する	○誰に対しても気持ちよく挨拶ができる生徒にする	生徒評価の結果は「お客様に対して立ち止まって挨拶するように心がけています。」が85%、「いつも自分からあいさつするよう心がけています。」が90%であった。この結果から、本校の生徒は「挨拶」に対する意識が高いと言える。今回は目標値に達することができたので、今後はその数値をさらに向上させたい。また、生徒の様子を見ていると「立ち止まって」「気持ちよく」などの中身(内容)については十分とは言えないので挨拶の質の向上も図りたい。	朝会で呼びかけたり、生徒会執行部・委員会の活動と連動させたりして「立ち止まって」の挨拶を校内で徹底させる。また、教職員自らが気持ちのよい挨拶を心がける。
		○生徒の「ことばの力」を高める	朝読書を含め、1ヶ月に3冊以上本を読む生徒の割合63% 朝読書及び図書委員会の取組等により、目標値を上回っている。 「ことばの力」を発揮する作品募集については、夏休み明けに集計する予定。	引き続き、朝読書及び図書委員会の取組を推進するとともに、読む本の種類が、中学生にふさわしく、ことばの力がより高まるような内容の図書を選定するよう指導していく。
*	生徒の自尊心を高める	○一人一人の生徒に視点を当て、笑顔でほめる	生徒評価の結果は「自分の良さはまわりの人から認められていると思います」が64%と、目標の80%にはほど遠い数値となった。自分を肯定的に評価できない生徒が多い。一人一人の生徒に視点を当て、機会を逃さず意識してほめる場面を増やす必要がある。	各教科で「生徒指導の三機能」を生かした授業づくりを行う。普段の学校生活の中で全教職員が意識的に生徒の良き行動や成長をほめる。職員間で積極的に生徒についての情報交換を行い、情報の共有化を図る。
	生徒の体力向上を図る	○生徒の体力・運動能力向上のための取組を行う	長座体前屈において、県平均(H23)を上回る生徒 1年男子 47.4% 1年女子 53.3% 2年男子 60.0% 2年女子 41.2% 3年男子 57.1% 3年女子 56.3% 県平均を上回る生徒が平均53%であり、柔軟性に大きな課題が見られる。	長期的展望を持ち、保健体育授業時、及び部活動における柔軟運動を継続して取り組む。また、月1回のノーゲームデーの推進、長期休業中の課題(ストレッチ)により、自ら積極的に体力向上に取り組もうとする意欲と態度を養う。

平成24年度 学校関係者評価及び改善策

(中間 最終)

警固屋中学校区 校番 8 学校名 呉市立警固屋中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	B	経営目標を踏まえて、具体的な、そして子どもたちの現状にあった目標が設定されている。ただ、指標の効果を見とる目安が、ほとんど生徒アンケートによるものとなっている。学校評価の正確度を高めるためにも、他の方法との併用を考えられてはどうか。
目標達成のための方策の適切さ	A	全体的には、適切な方策が講じられている。ただ、「立ち止まって、自分から挨拶する指導を徹底する。」という方策に関して、地域では子どもたちは積極的に挨拶しているとは言いがたい面がある。あいさつ運動の際にも、生徒から挨拶する割合は少ない。こうした現状に即して、挨拶の指導を見直されてはどうか。
自己評価の結果と分析の適切さ	A	詳しく調査されており、分析も適切である。しかし、あいさつをしている生徒が85%であり、自己評価もAとなっているが、日頃からあいさつ運動に携わっていて、この数値は高すぎるように思う。自分から意識してあいさつする中学生の割合は、もっと少ないように思う。こうしたことから、生徒アンケート以外の見とりが必要である。
今後の改善策(案)の適切さ	A	目標を達成しているものについても、それ以上をめざして改善策が講じられている。 家庭学習については、保護者の意識変革が大事であり、それがないと学校がいくら取り組んでも効果が出てこない。PTAとの連携において、具体的に保護者啓発に取り組んでいく必要がある。
その他		当初は目標値が高すぎるのではないかという思いもあったが、多くの項目で目標値を達成しているのは、先生方の熱心な取組のおかげである。子どもたちは、安心して楽しそうに学校に通っていると、今年は特に感じる。学校の取組に感謝している。 地域、保護者、学校の三者の信頼関係を土台として、充実した教育活動は展開できる。今後も、信頼関係の構築に十分努めて欲しい。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<p>○家庭学習の充実のために、これまで「家庭学習のすすめ」の作成・配布、また「自立ノート」の実施等取組を行ってきた。今年度より、毎月第2月曜日をノーゲームデーと定め、実践を積んでいる。こうした取組の意義について、保護者に十分な説明ができていないことも事実である。懇談会はもとより、PTA実行委員会も、保護者啓発の場として活用していきたい。</p> <p>○コミュニケーション力の育成として、挨拶の指導には力を入れてきたが、十分でない実態が明らかとなった。あいさつ運動に教職員も参加し、生徒の様子を把握しながら、校内にとどまらず、地域社会の一員として、地域の中でも進んで挨拶ができるように指導していく。</p>
--------------------	---